

とりがい 秀夫の地域ニュース

南千住 8 - 3 - 3 - 201 電話 & FAX (3807) 4811



セメントサイロ跡地活用始動 商業系か産業系か 23 年度決定

2 月から始まった区議会予算委員会において、私は区長はじめ理事者にセメントサイロ跡地解体後の活用策について質問を致しました。現在のところは計画が全く見えない状況にありますが、その後の話をまとめると次のようなスケジュールが浮かび上がってきました。セメントサイロ跡地の面積は 15,000 平米

ありますが活用するのはそのうちの半分の 7,500 平米となります。【残りは貨物ヤードの整備として活用するため】又、セメントサイロは 4 基ありますがその撤去費用は 1 基 1 億円以上となっています。今後のスケジュールは右のような流れになりますが、基本的には住宅系は建設しないということが決まっていますので、商業系なのか産業系なのかそれらを組み入れるのかによって、南千住だけでなく将来の荒川区全体の経済活動にも影響が出てきます。全体の完成は 26 年度頃の予定です。事業者の公募状況で、づれ込む場合があります。



平成 23 年夏ごろに区と JR 貨物開発部が完成までの基本計画を話し合います

協議会発足

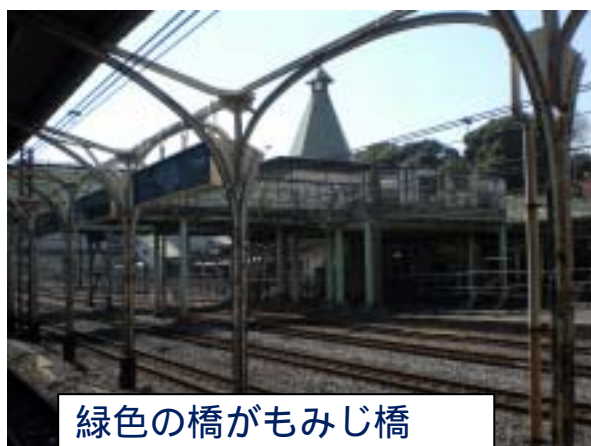
どのようなメンバーが入るのかによって、跡地の将来像が変わる

施設の概要が決定すると公募を行います。公募に応じた事業者が決定。事業者と協議を行い、施設の建設を行います。

早ければ平成 26 年度に新しい南千住の顔が生まれます。

常磐線日暮里駅 ホーム拡幅実現へ 混雑時の危険度解消

荒川区やJR東日本の情報によると、3月11日に発生した大震災が東京で起きた場合、日暮里駅も大きな損害が発生するとの予測が出ています。特に南口に架かる「もみじ橋」の危険度が指摘されています。かねてから荒川区はJRとの協議の中でもみじ橋と常磐線ホームの拡幅は一体的なものとして応分の負担をすべきとの主張をしていますが、JR側がこれに応じていないとの状況にあります。ところが今回の地震の影響でJR側が荒川区側の主張に一步近づいたような姿勢に転換しました。実現が確実となりました。



緑色の橋がもみじ橋

京成日暮里駅の廃止線路を活用

現在の常磐線日暮里駅の朝夕のラッシュ時におけるホームの混雑は大変厳しい状況にあります。かつての北千住駅にも似たような状況です。かねてから日暮里駅も改善の必要性が言われていましたが拡幅できる場所がありませんでした。今回幸いなことに、京成日暮里駅が大幅に駅舎改善事業を行った所、1路線の余裕が生まれましたので今回その廃止線路を活用することになりました。整備のスケジュールは未定ですが、議会等で報告があればお知らせします。



左側の線路が上部に移動した。
廃線の京成側を利用。

東北大震災・汐入も影響 夜間施設開放を要望

5～6月頃一部開放 ふれあい館・学校等

福島原発事故の影響による計画停電。東京では足立区の大半と荒川区の一部（町屋・東尾久）で実施されました。このことにより荒川区は4月1日より区内の公共施設の夜間利用が出来なくなっています。荒川区の文化団体や体育団体はそれぞれの地域にある施設を利用し、夜間活動を行っています。使用禁止の影響で、汐入地区においても小中学校・ふれあい館の利用者に影響が出ています。私や自民党でも条件が整い次第早期に使用させるべきと強く要望しています。

胡録神社子供渡御中止

6月5日に予定していた、胡録神社「子供みこし」の町内渡御。先日、神社関係者の役員会が行われ協議を致しました。楽しみにしている子供たちの為にも、実施すべきとの意見もありましたが、福島原発の不透明さやこの町にも被災地の方との親類も多くいる事。石浜神社やすさのう神社の中止なども考慮し、今回は中止となりました。ただし、式典は挙行します。

汐入タワー展望塔解放

震災の影響で延期となっていた、汐入タワー展望塔が利用できるようになりました。朝9時から17時まで利用できます。

町会・中学合同運動会実施

5月29日の荒川三中と地元町会合同の運動会。今年も予定通り開催されます。この運動会はかつて、再開発事業の半ばに中学生が減少し、全校で70人位になったこともあり、町会の方々が合同開催し盛り上げようという企画で始まった物です。是非、大勢の方のご参加を期待します。

白鬚橋際に東洋一の撮影所

みぞぐちけんじ

巨匠溝口健二監督も活躍

前回の「白鬚橋際の三条実美別邸」に続き、今回も白鬚橋際の事についてお話しさせていただきます。エジソンの発明した映画が日本に入ってきたのは明治29年(1896)頃です。神戸で最初に上映されました。【この年にも今回と同じ三陸沖に地震に伴う大津波が発生し、2万人を超える方がなくなりました】荒川区にも日活の前身となる撮影所が日暮里や町屋(現在の尾久の原公園近く・町屋4)にもあ



全天候ガラス張りの向島撮影所



大女優 田中絹代



巨匠 溝口健二監督

りましたが、本格的な撮影所が出来たのは日活の京都撮影所と大正2年(1913)に写真にみられるような全天候型のガラス張りのモダンな建物で、東洋一と言われた、近代的な撮影所が白鬚橋近くの墨田区、現在の白鬚東公園の中に完成します【敷地面積7,500平米・建物900平米】日活向島撮影所です。この撮影所で、数多くの作品が生まれますが、なかでも活躍したのは、大正9年に入社した往年の名女優田中絹代と数多くの作品を残した巨匠・溝口健二監督で、大正9年に入社し1年で9本の作品を残します。残念ながら日活向島撮影所は大正12年(1923)の関東大震災で壊滅し10年の幕を閉じます。